

春田がいく!



活動日誌

「若者の自立支援施策」

高松市議会公明党会派視察から

開催日:平成26年7月11日(横浜)

90年代後半から「虐待」「不登校」「貧困」など子ども達が直面している問題が顕在化し、「ひきこもり」「ニート」「フリーター」「ワーキングプア」に象徴される生活基盤が不安定な若者が急増。これらの子ども・若者が抱える課題は、単に当事者や保護者だけの問題ではなく社会の問題だとして、平成22年4月に施行された「子ども・若者育成支援推進法」を受け、「子ども・若者支援協議会」を設置するなど先進的な取り組みを行っている横浜市を視察しました。教育、福祉、保険、医療、厚生保護、雇用などの専門家、支援団体や企業など、様々な分野の委員により構成される協議会と青少年局として行政が一元的な体制で若者支援を担う取り組みをしっかりと視察し、代表質問に取り上げました。

「教育改革は家庭教育支援から切り込め」

地方議員研修会

開催日:平成26年8月4日~5日

講師:一般社団法人家庭教育支援センター・ペアレントキャンプ代表理事 水野達朗氏



「家庭教育支援行政の実際」と「地域資源を活用した新しい家庭教育支援のカたち」をテーマに2日間開催されました。公的支援の相談窓口が複雑な上に、不登校の対応は教育部局、訪問支援(アウトリーチ)は福祉部局といったように縦割りの障壁があり、円滑なサービスが提供できていない事。また、不登校に対する公的支援は、長期欠席者

全体を考えた支援が行われているか? 病気が判断されている場合は保健・福祉部局に引き継がれフォローされなければならない。更に、義務教育後の支援、引きこもり支援や就業支援と連携が取れているかなど注視すべき点を学びました。不登校の問題を解決するために、家庭教育を支援する体制整備やスクールソーシャルワーカーの拡充を9月定例議会の一般質問で質しました。

議会質問(平成26年)

第5回定例議会(9/12)一般質問

1. 地域コミュニティの支援
2. 交通空白地域の地域内交通
3. 家庭教育支援
4. 徘徊高齢者保護ネットワーク
5. 中小企業振興策
6. 学校施設の光熱費削減

第6回定例議会(12/11)代表質問

1. 政治姿勢
(1)市長選出馬の決意、(2)第6次総合計画
(3)第4回日仏自治体交流会
2. 消費増税延期への対応
3. 地域コミュニティ振興
4. コンパクトシティづくり
5. 地域包括ケア
6. 若者支援体制の充実
7. 上水道事業の広域化
8. コミュニティスクール

●高松市議会の会議録は、下記のホームページから検索できます。
<http://discuss.city.takamatsu.kagawa.jp/disc/>
●インターネット議会中継は <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/9948.html>

相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。党員に限らず、どなたでも結構です。

- 日々の活動は「春田のブログ」<http://haruta.jp/blog/>をご覧ください。
- facebookは <http://www.facebook.com/keishi.haruta>
- つぶやきは <http://twitter.com/KHaruta>

春一番 編集後記

2015年(ひつじ年)がスタートしました。羊は群れて暮らすことから、古来より幸せと平和の象徴とされてきました。また、そのふわふわした毛は衣類になるなど、人を温める役割を果たして重宝されてきました。私は今年、年男です。私もこの羊にあやかって、周りの人を心身ともに温める役割を果たしていける一年としていきたいと決意しております。春には統一地方選挙が待ち受けています。世代を繋ぐ責任世代として、多くの方に想いを届け、多くの方の声を集められる存在へと躍進して参ります。今年も宜しくお願いいたします。

活動実績

平成26年4月~平成27年12月

4月7日	弦打保育所入所式 参列
9日	勝賀中学入学式 参列
10日	弦打小学校入学式 参列
11日	つるうち幼稚園入園式 参列
17日	教育民生常任委員会 出席
24日、25日	地方議員研修会参加「人口減少下の地域まちづくりを問う」
5月14日	高松市第2回臨時議会
17日	NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ 総会&講演会 参加
18日	弦打地区運動会 参列
21、22日	地方議員研修会参加「自治体財政のポイント」
23日	第7回アロハフェスティバル高松 参列
31日	勝賀中学校運動会 参列
6月6日	海底ゴミ回収処理システムの視察
10~23日	高松市第3回6月定例議会
7月9日	会派視察/墨田区「中小企業振興」
10日	会派視察/宇都宮市「地域内交通」、藤澤市「公共施設再整備」
11日	会派視察/横浜市「若者支援の取り組み」
13日	瀬戸内海国立公園記念式典 参列
15日	総務消防常任委員会 出席
24、25日	地方議員研修会参加 「人口減少のなかで活力あるまちづくりを考える」 四国オファサイトミーティング 参加
26日	高松メディアアート会議 参加
8月2日	高松メディアアート会議 参加
4~5日	地方議員研修会参加「教育改革は家庭教育支援から切り込め」
14日	「高松まつり」総踊り 参加
26日	総務消防常任委員会 出席
27~28日	総務消防常任委員会視察/姫路市、富山市
9月15日	地域づくりチャレンジ塾 参加
17日	一般質問
20日	瀬戸内生活工芸祭 参加
8~24日	高松市第4回(9月)定例議会
10月2日	戦争犠牲者追悼式 参列
6~7日	地域科学研究会参加「転換期を迎えた社会福祉法人制度」
10日	総務消防常任委員会 出席
11日	第1回ダイヤログバー高松 参加
15日	公益社団法人川島猛アートファクトリー設立準備 参加
29日	日仏自治体交流会 参加
3.16.20.24.27.28.31日	決算特別委員会 出席
11月6日	中核市サミット in 高松 出席
14日	総務消防常任委員会 出席
19日	総務消防常任委員会 出席
23日	高松市震災総合訓練 参列
12月1日	第2回ダイヤログバー 参加
5~22日	高松市第5回(12月)定例議会

市民相談件数 103件 / 相談累計 908件

会計報告(政務活動費)

経費の区分	H25年度実績	経費の区分	H26年4~12月
1 調査研究費	241,349	1 調査研究費	51,081
2 研修費	347,360	2 研修費	334,911
3 広報費	311,680	3 広報費	
4 広聴費	0	4 広聴費	
5 要請・陳情活動費	0	5 要請・陳情活動費	
6 会議費	19,800	6 会議費	14,800
7 資料作成費	38,740	7 資料作成費	35,707
8 資料購入費	120,300	8 資料購入費	94,609
9 人件費	0	9 人件費	
10 事務所費	0	10 事務所費	0
合計	1,079,229円	合計	531,108円

携帯で読むにはこちら→



Q 「春田敬司」ってどんな議員?

A 議会質問の実現率NO1の議員です。



高松市議会議員「春田敬司」と高松の明日を考える。VOL.11 2015.January

春風 PRESS

生活者の一番近くで、動く、働く。

市民相談の中にこそ、真実がある。

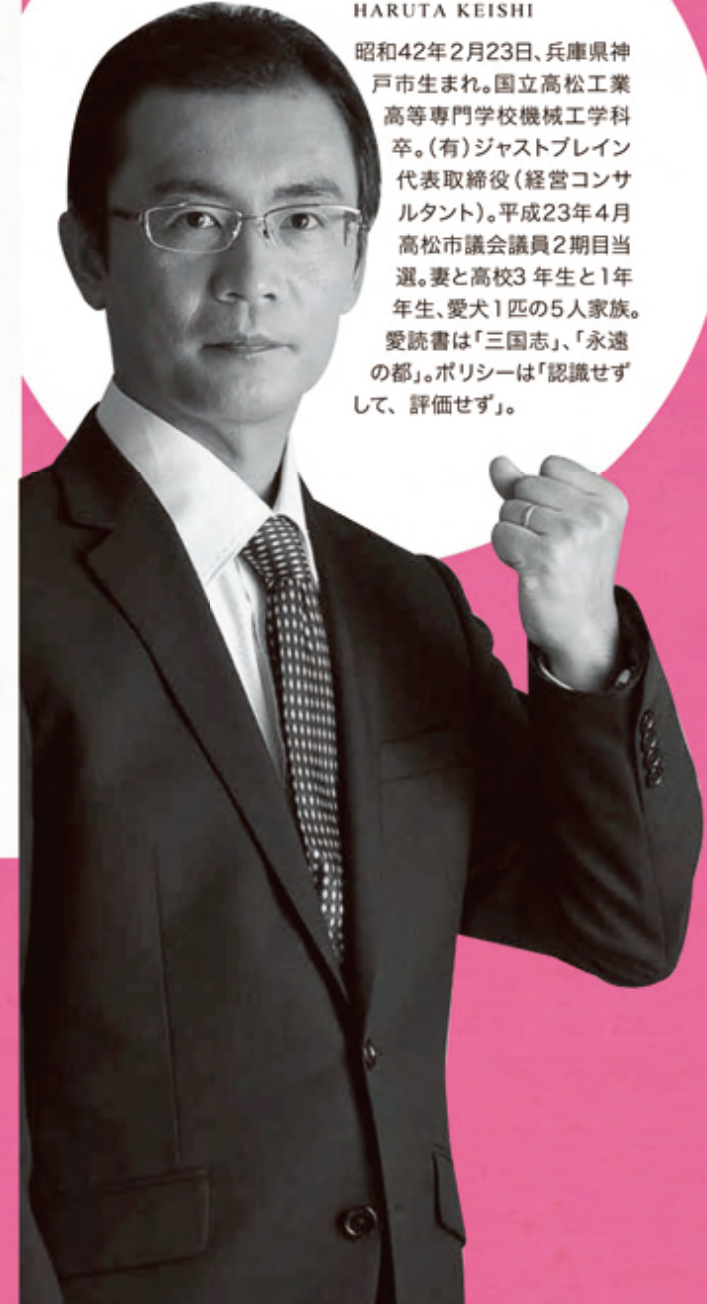
議員になりたての頃、私は先輩議員から「議員は議会質問が命だ」と教えられました。では、議員にとって、いい質問とは何でしょう? 私は、結果を引き出す質問、つまり行政をより良い方向へ動かす原動力となる質問だと思っています。そのためにはまず、市民が今、何に悩み、何に不安を抱いているのか、どんな希望を持ち、何が課題なのかを適切につかみ、同じ思いに立つ必要があります。私は、2期8年間で1000件近くの市民相談を頂戴してきました。またNPOやボランティアなど市民活動団体や、事業家、学生など若い皆さんとの対話の場にも積極的に参加してきました。そうやって直接お会いし、顔と顔を合わせて語られた生の声には、多くの問題や課題解決へのヒントがあります。この裏付けある主張こそが、行政を動かす原動力となるのです。

調査なくして、発言なし。

日々寄せられる声には、すぐに解決できるものと、そうでないものがあります。後者の多くは、縦割り行政や前例踏襲主義の悪習などが原因。問題を指摘しただけでは、現状は変わりません。課題と向きあい抜いて、解決の糸口となる事例や代替案を探り、打開策を導き出せるかどうかが議員の手腕。だからこそ、私は質問づくりに徹底的に時間をかけます。時々、「不登校が問題だ、今何人の不登校生がいるのか?どのように改善するのか?」。こんな質問をする議員がいますが、これは「議会質問」ではなく「お伺い」しているに過ぎません。また、「質問しても良い回答が得られない」と愚痴をこぼす人もいますが、議会直前に質問を投げかけても行政側の回答が間に合はずがありません。議員からの一方通行では、最良の答えは導き出せないのです。だから私は、何カ月も前から、場合によっては何年もかけて調査を尽くし、何度も行政と折衝を重ねて議会質問に臨みます。その積み重ねがあるからこそ、私は、議会質問の実現率NO1だと自負しています。

Profile
春田 敬司
HARUTA KEISHI

昭和42年2月23日、兵庫県神戸市生まれ。国立高松工業高等専門学校機械工学科卒。(有)ジャストブレイン代表取締役(経営コンサルタント)。平成23年4月高松市議会議員2期目当選。妻と高校3年生と1年生、愛犬1匹の5人家族。愛読書は「三国志」、「永遠の都」。ポリシーは「認識せずして、評価せず」。



春風 PRESS VOL.11

発行者: 高松市議会議員 春田敬司
発行日: 2015年1月
連絡先: 〒761-8013 高松市香西東町14番地8
TEL: 087-842-5730

春田敬司のセルフ通信簿

2期8年間の 主な活動実績

経営コンサルタントとしての分析力を生かし、
これまでさまざまな視点から高松市政を検証し、改善に努めて参りました。
そんな2期8年間の議員生活を自分なりに振り返ってみようと思います。
題して「セルフ通信簿」。まちづくりに終わりはありません。
だからこそ、立ち止まって、見直して、次に生かす。
これからも、今まで以上に進み続けます！



個性と創造性をはぐくむ人間教育を推進

全国初！芸術士のいる保育所を実現

子供は未来の宝物です。しかし、子育て現場の実情は多くの課題を抱え、お母さんも職員もいっぱい。そこで、就学前の子供を地域全体で育み、「感性豊かな芸術家と一緒に生活することで、互いの個性を尊重し合い、一人ひとりの無限の可能性を大切に育てたい」との願いを込めて、NPOと連携して芸術士派遣事業を提案。平成21年から開始されました。現在、全国初の取り組みとして高い関心が寄せられています。



芸術士を派遣している施設は28カ所から35カ所に増え、年々拡大されています。今後は、市全体に取り組みを広げ、活動内容を改善しながら、高松市の看板となるべき事業に育てたいと思います。



子育て支援 と 次世代の育成

そして、次にめざすもの。

少子高齢社会への対応は待たなしの現状です。

高齢者が、住みなれた地域で尊厳を持って

暮らし続けるために、

若者が、未来に希望を持って生きられるために。

「目の前の暮らし」と「未来の暮らし」

その二つを守ることが必要なのです。

異なる立場・意見の中で、いかに地域の合意をつくり、

皆で協力し合うかが問われているのです。

私も責任世代として、

その対話の中心を担ってまいります。

皆様の更なる「声」をお聞かせください。

春田敬司

行政システム の見直し



小学校は6年、中学校は3年ぶり！島に子供の声もどった 男木小・中学校の再開に尽力

「瀬戸内国際芸術祭を機に、男木島に親子で戻りたいが、島の小・中学校は休校状態。学校の再開を役所にもお願いしても聞いてもらえないんです。この小さな声を受けとめ、署名活動など彼らの取り組みを仲間たちと支えながら、「離島で暮らすおじいちゃん、おばあちゃんの笑顔を取り戻すことは地方再生の象徴であり、芸術祭の目的もそこにあつたはず。教育委員会だけでなく、高松市の未来に関わる内容として考えるべき」と議会に訴え、H26年春に学校を再開することができました。



自己採点

学校再開は地域を元気にする大きな一歩。しかし、島で、地域で、若い人が働き暮らし続けるには、事業を創出し地域を支える人材が重要です。今後も彼らを支える仕組みを切れ目なく構築します！

行政サービスの根本にメスを 行政評価と 人事評価制度の改正

限られた財源を最大限に活用し、市民の幸福を実現するには、事業の見直しと検証が不可欠です。そこで、高松市の全事務事業の評価プロセスを誰でも見られるよう、「計画・実行・検証・改善」の仕組みづくりを8年間一貫して訴え続けました。また事業を計画実行する職員の質を問題視し、頑張っている職員を評価し、ダメな職員を厳しく罰する人事評価制度の改正にも言及し続けています。

自己採点

事務事業評価は、H23年度からスタート、H24年度からは高松市のHP(※)でも公開しています。また人事評価制度も、H24年度に管理職から開始、小人数制の朝礼を導入するなど一歩ずつ改革が始まっています。しかし、評価が不十分、給与制度と連動できていないなど、民間と比べると著しく遅れており、今後も改革が求められています。

(※) <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/20068.html>

教育現場のトラブル解消！ 中四国初、 ITシステム導入

学校の先生達の仕事量は年々増大し、生徒の記録を家に持ち帰って残業するのが現状です。そのためデータ紛失の事故が頻発していました。そこで最新のIT技術を活用した問題解決を議会で提案。中四国初の教育クラウドシステム導入を実現しました。これによりデータ紛失のトラブル防止と先生の作業効率向上、生徒に向き合う時間を増やすための環境が整いました。

自己採点

このシステムの最大の効用は、優れた先生の授業や取り組みをより多くの教師間で共有し、教育現場の向上に役立ててもらうこと。今後も経過を見守り続けます。

支え合いのネットワークを拡大

徘徊高齢者の早期保護へ

「家族が行方不明になって帰ってこない」そんな相談が寄せられました。認知症による徘徊高齢者の増加は全国的な問題。地域全体で見守りを強化するため、現在の「徘徊高齢者保護ネットワーク」を充実発展させ、顔写真入りの情報を速やかに伝達するメール配信の仕組みを議会で提案。「協力者1万人に一斉配信する」とした市長の方針を引き出し、翌日の四国新聞1面で記事が紹介されました。

自己採点

認知症の問題は今後も増大が予測されるため、地域で見守り支えるシステムが整ったことは大きな成果です。しかし、システムができて使う人の理解が広がらなければ活用できません。今後は認知症サポーターの更なる普及拡大や初期集中支援チームの設置を進めて参ります。

誰もが安心して 暮らせる まちづくり

福祉の
充実拡大に貢献

全国3000人の ネットワークで推進

- 乳幼児医療費の助成拡大
- 成人用肺炎球菌予防接種の助成
- 被災者支援システムの導入

自己採点

公明党の全国議員ネットワークと連携し、様々な福祉の充実拡大に取り組みました。特に乳児医療費助成は、H27年春から中学3年生まで無料に拡大予定です。今後も社会的課題に速やかに対応できるよう、政策提言して参ります。

公明党の真骨頂！総点検を実施

介護総点検と 若者雇用実態調査

公明党として、H21年、全国で「介護総点検」を実施。国へ「新・介護公明ビジョン」を政策提言し、高松市でも施設の充実や、医療と介護の連携強化などを訴えました。また、青年局では「若者の雇用に関する緊急総点検」を実施。小・中学校の段階から地域で働く素晴らしさを伝える「キャリア教育」にも注力しています。

自己採点

「調査なくして発言なし」。社会的課題に対し、現場第一主義で自らの足で行う総点検運動は、公明党の伝統です。調査で得た生の声は、議会に届ける際の説得力にもつながります。

【地区地域の実績一覧】

- 小田池、香西ポンプ場の悪臭対策
- 道路の修繕 64カ所
- カーブミラーの設置 15カ所
- 水道などの転落防止柵、ガードレールの設置 9カ所
- 高齢者緊急通報装置貸与 15カ所
- 市営団地の住み替え待機解消
- 高松市内の中学校楽器管理を予算化
- 小型家電リサイクルボックス設置拡充

